

発寒ひかり
保育園だより

2020年
10月号

巻頭言

この4月に入園したうさぎ組(3歳児)のT君は、給食を自分からすすんで食べようとしました。ある日、T君の隣に座っていたきりん組(5歳児)のAちゃんが、「Aもこれたべるから いっしょに たべてみよう」と声をかけました。すると、T君は「うん」と答えて、嬉しそうにAちゃんと同じものを一緒に食べ進め、初めて自分で食べることができたのです。その時の、Aちゃんの笑顔と温かな眼差しに、私は胸が熱くなりました。それからのT君は、お姉さんのような存在になったAちゃんの隣で毎日給食を食べ、今ではAちゃんが隣にいらなくても自分から食べることもできるようになりました。

また、ばんび(4歳児)組のS君は、クラス活動からファミリー(0歳児から5歳児までの異年齢グループ)のお部屋に戻ってくると、よくAちゃんのもとへ駆け寄り抱きつきます。Aちゃんは何も言わず、優しく頭をなで、S君が自分から離れるまで抱いています。その姿を見ると、AちゃんはS君にとって、母のような存在なのではないかとさえ感じます。

Aちゃんが、うさぎ組(3歳児)で入園してきたころは、小さい子との関わりに戸惑っていたこともありましたが、今の姿は、保育士と上の子たちからの愛情をたっぷり受け、小さい子との関わりを学びながら、Aちゃんの中で自然に育ってきたものではないかと思えます。

ファミリーみんなの「お母さん」のような存在になってきたAちゃん。その愛情を将来、身近な人や困っている人、そして世界中の人たちに注いで欲しいと願っています。

とまとファミリリー・ことり組担任 小林 遥